

令和2年度 農山漁村振興交付金(山村活性化対策)
事業実施主体 評価結果

1. 事業評価の実施

令和2年度に実施された農山漁村振興交付金(山村活性化対策)の事業について、「農山漁村振興交付金(山村活性化対策)実施要領」(平成30年3月28日付け29農振第2261号農林水産省農村振興局長通知)の第9の1の(1)の規定に基づき、評価を行ったので、その結果を公表する。

2. 評価結果

都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階			評価	評価コメント
			R2	R3	R4		
北海道	下川町	下川町山村活性化支援協議会	○			A	事業内容は優良であり、次年度以降も努力されたい

(注1)「事業実施段階」の凡例： ○…交付対象年度(計画) ●…交付対象年度(実施済) □…目標年度(計画) ■…目標年度(実施済)

(注2)「評価」の区分： A…優良 B…良好 C…低調

3. 第三者の意見聴取

農山漁村振興交付金(山村活性化対策)実施要領の第9の1の(1)の規定に基づき、第三者である三条 幹男から評価に当たり意見の聴取を行った。第三者及び意見聴取の概要は以下のとおり。

【第三者】

三条 幹男

【意見聴取の概要】

令和2年度の取組事業内容を令和3年5月17日詳細説明の上、意見聴取を行った。内容評価については良好に進捗しており優良といえる。詳細は別紙2のとおりである。

農山漁村振興交付金(山村活性化対策) 評価シート

1. 事業実施主体(評価者)	下川町山村活性化支援協議会	事業開始年度	目標年度	事業実施期間(令和2年度)
2. 取組振興山村名	下川町	令和2年度	令和4年度	令和2年5月25日～令和3年3月31日
3. 事業費(うち国費)	10,041,492円(10,000,000円)			
4. 第三者氏名	三条 幹男			
5. 事業評価				
総合評価				
○ 取組の実施状況や目標の達成に必要な取組が十分に行われたか。 (①から④までを踏まえた総合的な評価)		(評価理由及び助言等のコメント)		
評価 (該当に○)	(A) (B) (C) 重点指導対象	協議会は取り組み内容を常に考査しながら予定通りに進捗し、商品開発数も目標を達成しており概ね順調である。また、取組に当たっては効率的な運営がなされている状況にあるといえる。令和3年度には、商品のブラッシュアップやマーケティング調査を積極的に進め、早期の事業化や雇用創出につなげてもらいたい		
① 取組状況				
○ 目標の達成に資するための取組が行われたか。		(評価理由及び助言等のコメント)		
評価 (該当に○)	(A) (B) (C) 重点指導対象	協議会は、目標に基づき順調に3つの取り組みテーマを実施している状況を確認できた ・木質化資源有効活用:間伐枝葉賦存量調査、バイオチャー成分分析及び市場調査、河川支障木資源活用調査 ・モッタイナイ地域資源活用:規格外トマト活用のリキュール開発、マーケティング調査、山の恵みマッチング出展、エゾシカ利活用(ブランディング、食肉加工ノウハウ取得、プロシュート試作、内蔵水煮缶試作) ・多様な森林資源活用のための管理手法の構築と人材育成:チェンソー技術研修動画作成と研修会開催、針葉樹森林認証材活用製品の4台試作		
② 事業実績				
○ 事業実施計画の目標は達成できているか。		(評価理由及び助言等のコメント)		
評価 (該当に○)	(A) (B) (C) 重点指導対象	協議会により開発された商品数は以下のとおり確認できた ・地域資源活用商品開発数:目標3→実績3(トマトリキュール試作、エゾシカプロシュート試作、針葉樹森林認証材活用消毒液設置台試作) ・組織立ち上げ:目標1→実績1下川町ローカルフード協議会立ち上げ(R2.5月) ・目標通り適正に進捗している		
③ 実施体制				
○ 事業実施主体の取組体制は十分に機能したか。		(評価理由及び助言等のコメント)		
評価 (該当に○)	(A) (B) (C)	協議会の取組体制について以下の理由から評価を行った テーマごとの役割分担により取り組みは効率的かつ効果的に機能した結果、商品開発数や人材育成、雇用の場の創出などの目標を達成できた。		
④ その他				
常に状況を分析しながら、下川町の森林林業、林産業の発展に寄与するための活動が見聞できる。				

※複数名の学識経験者等第三者から意見聴取している場合、第三者間で調整した意見結果を記載する。

別紙2

(任意評価様式第2号)

学識経験者等第三者について

下川町山村活性化支援協議会

1. 第三者の氏名、住所 ① 氏名： 三条 幹男 ② 住所： 北海道上川郡下川町南町384-4	3. 第三者の経歴 ・昭和35年1月22日生まれ(現62歳) ・昭和57年7月下川町役場奉職 ・平成元年1月農林課林政係拝命 ・以降、一般林政、有害鳥獣対策、町有林造林事業、私有林振興事業、林業構造改善事業、林道事業等に27年間従事 ・平成24年2月森林総合産業推進課長拝命 ・令和元年6月下川町役場退職 ・現在、自営業
2. 第三者に選定した理由 三条氏は、長年町役場職員として27年間林業林産業に従事し、地元資源や人的資源について精通し、雇用創出や商品開発など業務経験も豊かであることから、本協議会の外部評価委員として適任者であると判断した。	

別紙2

(任意評価様式第3号)

令和2年度	事業開始 1年目	北海道上川郡下川町	下川町山村活性化支援協議会
-------	-------------	-----------	---------------

農山漁村振興交付金（山村活性化対策）

○事業の実施状況

■エゾシカ利活用状況



↑ICTワナ捕獲状況



←プロシュート試作

■トマト活用：リキュール試作



↓製造原料混合状況



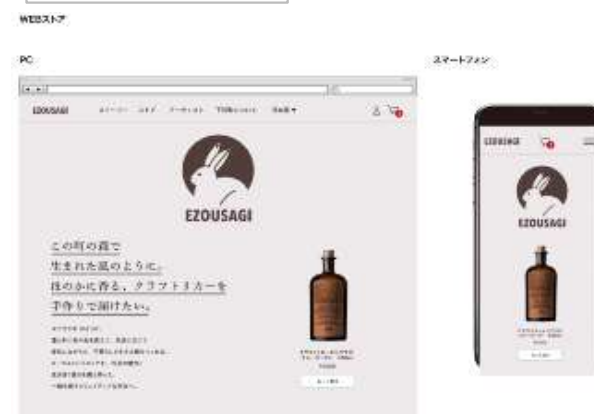
商品ボトルデ



↑ラベルデザイン



↓WEBデザイン



回答者人数: 32名

居住地内訳

- 下川町: 19名

- 札幌: 3名

- その他: 東京都世田谷区、神奈川県鎌倉市、ニセコ町、旭川市、西興部村、美深町、岩手県、宮城県、鹿児島県

性別内訳

女性: 7名 男性: 21名 無回答:

4名

←試作アンケート調

○今後の事業構想

エゾシカ利活用：食肉加工技術習得及び技術向上→R3年度法人起業→設備投資→製造販売を予定

トマトリキュール：販売母体となるローカルフード協議会設立済み→販売体制構築→委託製造試験（ブラッシュアップ）→R3販売開始予定

参考資料（開発商品一覧）

下川町山村活性化支援協議会



↑①エゾシカプロシュート



↑②トマトリキュール



↑③針葉樹森林認証材活用 消毒液設置台

参考資料（取組の紹介記事等）

下川町山村活性化支援協議会



↑ 針葉樹森林認証材活用消毒液設置台試作

針葉樹森林認証材活用製品モニターアンケート

下川町山村活性化支援協議会では、林業の発展の基盤となる森林の活用促進、持続可能な地域づくりを目指して地産林産品を活用した高付加価値製品の試作を行っています。

本月に利用させていただいております「針葉樹森林認証材を活用した手抱き消毒液設置台」の感想などお聞かせいただければ幸いです。

① お客先ご自身についてお答えください（該当箇所には○をつけてください）

性別	男性	女性
職業	経営者	従業員
業種	飲食業	宿泊業
施設名	ホテル	旅館
その他	学生	その他

② お客先ご自身についてお答えください（該当箇所には○をつけてください）

項目	5	4	3	2	1
製品の印象	5	4	3	2	1
製品の使いやすさ	5	4	3	2	1
製品のデザイン性	5	4	3	2	1
製品の設置・取付け	5	4	3	2	1

③ お客先ご自身についてお答えください（該当箇所には○をつけてください）

項目	価格帯	2~3	4~5	6~7	8以上
旅館内での設置台	1000円	2~3	4~5	6~7	8以上
飲食店など客室用消毒液台	1000円	2~3	4~5	6~7	8以上
ホテルなど宿泊施設用消毒液台	1000円	2~3	4~5	6~7	8以上
公共施設用消毒液台	1000円	2~3	4~5	6~7	8以上

④ その他ご意見等があればご自由にお書きください

設置台のデザインが素敵で、ホテルや旅館に設置したいです。また、他の施設にも設置したいです。

～ご協力ありがとうございました～

↑ 消毒液設置台のアンケート調査 のべ98名回答

アンケート調査結果概要

- ・30代～50代女性の意見として、ホテルなど宿泊施設向け価格帯は2-3万円が妥当
- ・同じく飲食店向けの価格帯は2-3万円が妥当
- ・各年代ともに家庭向け価格帯は1万円以下が妥当
- ・下川町五味温泉、オホーツク雄武町ホテル日の出岬ともに集計結果に大きな違いがない

別紙2

(任意評価様式第4号)

令和2年度	事業開始 1年目	北海道上川郡下川町	下川町山村活性化支援協議会
山の恵みマッチング2020への参加実績			1：商品登録のみ 2：商談会参加 3：展示会参加

- 1：山の恵みマッチングWEBサイトへの商品登録のみ実施した
2：第1回商談会（R2.10.30、11.4）又は第2回商談会（R2.12.4）に参加した
3：東京ビッグサイトでの展示・商談会（R3.2.3～2.5）に参加した

○対象商品、参加状況等

トマトリキュール試作品の紹介

一部リアル参加（東京在住下川町関係者）、一部WEB参加を組み合わせ参加

○得られた課題や商談の成約状況等（成約や共同開発など販路拡大に繋がった場合は、可能な範囲で具体的・定量的に成果を記載すること）

会場来場者：11, 393名

ブース来展者：51名

対応状況：来展者に対してメール等の連絡、今後の商品化についてPR、マーケティング調査を実施
後日試作品の郵送（さらに関係先へのマーケティングにつなげた）

○（参加後の）取組への反映・フィードバック状況、今後の取組方針等

いただいた意見を参考に2回目の試作へ移行し、第2号280本を試作した